

平成26年度 長崎県立大村城南高等学校 学校評価

学 校 教 育 目 標	長崎県教育方針に基づき、普通教育並びに専門教育を施し、我が国及び郷土の発展に寄与し、生涯を通じて学び、国際社会に貢献できる調和の取れた人間の育成を図る。 (1) 地域に信頼され、期待に応えうる特色ある高校づくりを推進する。(ミッション) (2) 総合学科の特性を活かし、生徒一人ひとりに応じた進路実現を図る。(ビジョン) (3) 学校に対する帰属意識を高め、自尊感情を育む教育活動を重視する。(パッション)
本年度の努力目標	(1) 人間関係力の育成 端正な頭髪・服装を心がけ、自ら進んで挨拶をする生徒を育てる。 (2) 学力の向上と進路目標の達成 目的意識を持って、自ら意欲的に学習に取り組む生徒を育てる。 (3) 部活動と生徒会活動の活性化 集団生活に積極的に参加し、克己と協調の精神を備えた生徒を育てる。 (4) 心の教育の推進 環境美化やボランティア活動をとおして、思いやりのある生徒を育てる。 (5) 家庭や地域との連携 家庭や地域との連携を積極的に行い、学校活性化を図る。

学 校 評 価 の 結 果 （職員の自己評価・保護者、生徒、学校関係者の評価）

よくあてはまる； 4 ややあてはまる； 3 あまりあてはまらない； 2 あてはまらない； 1

1 学校教育方針に関する評価

評価項目	評 価 指 標	具 体 的 方 策	職 員	生 徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成 果 と 課 題
努力目標	人間関係力の育成	端正な頭髪・服装を心がけ、自ら進んで挨拶をする生徒を育てる。	3.1			3.0	3.5	さわやかな挨拶をする生徒がいる反面、しない生徒もいる。朝の立番指導での挨拶を根気強く続ける必要がある。
	学力の向上と進路目標の達成	目的意識を持って、自ら意欲的に学習に取り組む生徒を育てる。	2.9			3.5	3.2	与えられた課題には良く取り組むようになったが、自主的な学習に取り組む生徒は少なかった。しかし、3年生の進路目標はおおむね達成できた。
	部活動と生徒会活動の活性化	集団生活に積極的に参加し、克己と協調の精神を備えた生徒を育てる。	3.0			3.5	3.3	生徒会を中心として各種の学校行事を成功させた。また対外的にもインターアクトクラブのホスト校として多くの人をもてなし大会を成功させた。ただし、部活動に熱心に参加する生徒とそうでない生徒との2極化が進んでいる。
	心の教育の推進	環境美化やボランティア活動をとおして、思いやりのある生徒を育てる。	3.2			3.1	3.2	がんばらば国体では210名の生徒が運営補助・ボランティア活動を行った。
	家庭や地域との連携	家庭や地域との連携を積極的に行い、学校活性化を図る。	3.2			3.0	3.1	学校の情報をいち早く電子メールによって配信した。しかし、地域との関わりを深めるために学校新聞等の配付が必要であった。

2 学校運営に関する評価

評価項目	評価指標	具体的方策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成果と課題
学校運営	基礎学力向上のための指導状況	基礎学力の向上を図るとともに各種の資格取得を推進する。	3.2	3.1	3.4	3.5	3.3	週1回の基礎学力テストを年間29回実施した。意欲的に取り組む生徒が多くいる反面、合格だけを目指す生徒もいた。今後は学力の推移の検証が必要。資格取得(検定受検)については年間資格取得数は840件を超え、一人平均2件の取得につながった。家庭科検定においては4冠・3冠を達成する生徒が各1名ずつであった。
	特色ある学校づくりの実施状況	特色ある総合学科づくりの工夫に努める。	3.2	3.1	3.3	3.3	3.2	竹松農場での田んぼアート作成は7年目を迎えた。1,389名の来観者があり、本校の特色ある事業として定着した。全国農業高校お米甲子園では金賞を受賞し、生徒の意欲向上につながった。県内県立高校唯一の介護福祉士養成校として、資格取得を目指したカリキュラムをおおむね予定どおり実施でき、介護福祉士の国家試験受験率100%であった。今後は、各系列の特性を生かせる進路先の開拓に努める必要がある。
	学級経営状況	担任・副担任は、連携を密にして学級経営を行う。	3.3	3.0	3.1	3.5	3.2	各学級で正副担任間の情報交換、連携はスムーズに行われた。校務に偏りが生じないよう、年間を見通した業務分担が課題。

学校運営	部活動の活動状況	部活動への入部を奨励し、学校の活性化を図る。	2.7	3.0	3.1	3.5	3.1	国体に出場した種目もあり部活動については一定の成果を上げた。また系列専門部を部活動に編成し直したことによって全国規模の賞を獲得するなど学校の活性化につながった。しかし、男子生徒数が少ないため男子部活動の活性化と無所属生徒への指導が課題。
	「朝の読書」の実施状況	「朝の読書」の定着に努める。	3.3	3.0	3.2	3.0	3.1	各学級においておおむね良好な実施状況であった。読書習慣の定着と落ち着いた雰囲気作りに成果があった。

3 教育活動に関する評価

評価項目	評価指標	具体的方策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成果と課題
教育課程	個に応じた学習指導状況	習熟度別または個別指導によって学力の向上を図る。	3.1	2.7	3.1	3.5	3.1	生徒個々の学力及び希望進路に応じた指導が展開された。学力向上の検証と習熟度別学習において学習意欲に乏しい生徒への対応が課題。
	家庭学習状況	宿題等を工夫して作成して家庭学習の充実を図る。	2.9	2.8	3.0	3.0	2.9	各教科とも課題等を織り交ぜた学習計画を策定。特に資格取得には大いに効果があった。しかし各学年に家庭学習時間ゼロの生徒がみられる。家庭学習の重要性を啓発する必要がある。

教育課程	外部人材の活用状況	外部講師や民間講師を招聘して授業の深化を図る。	3.4	3.1	3.1	3.0	3.2	外部講師を招いての授業及び講話を全学年で年間にのべ18回、34時間実施した。生徒の興味関心の喚起に成果があった。次年度も継続する。今後は、一時的効果に終わらず進路意識の向上につなげたい。
	「総合的な学習の時間」の活動状況	「総合的な学習の時間」を活用して自発的・自主的学習態度の育成を図る。	3.1	3.0	3.1	3.0	3.1	キャリア教育を根底に据え、生徒各自の進路実現のための計画的な学習が行われた。特に総合学科発表会に向けて自主的、意欲的な取り組みをする生徒が多く見られた。
生徒指導	容儀指導状況	校門指導や容儀検査を定期的に実施して指導の徹底をはかる。	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	定期考査終了日に学年毎の一斉容儀指導を実施した。その成果はあったと思われる。また日常の活動の中でも地道な指導を継続する必要がある。
	交通安全教育の活動状況	自転車の乗車マナー等交通安全の意識向上に努める。	3.2	3.4	3.3	3.0	3.2	年間を通して乗車マナー指導や自転車点検を行った。しかし、自転車事故は無くなっていないのが現状で、今後も安全指導、交通マナー指導が必要。
	教育相談体制の整備状況	「悩み調査」や「被害調査」を活かしていじめ・盗難防止に努める。	3.4	2.8	3.0	3.0	3.1	1年生に対し4月に教育相談部による全員面談を行った。また、昨年度は2種類、年3回の調査(アンケート)であったのを、今年度は3種類、年6回行った。諸調査や教職員の観察により認知したものへは適宜対応し、解決をはかった。また、課題を抱える生徒の情報は職員間で共有することができた。

生徒指導	人権に関する指導状況	人権・同和問題に対する認識を深め、人権意識の高揚に努める。	3.2	2.9	3.1	3.0	3.1	教育相談部が策定した人権研修会への職員の参加計画に基づいて研修を進めた。生徒へは通常の人権教育の他、全校集会で他者尊重の重要性を訴えた。
進路指導	進路実現のための指導体制の整備状況	進路実現のための科目選択や時間割づくりに努める。	3.1	3.0	3.3	3.0	3.1	科目選択委員会を年4回開催し生徒の進路実現につながる科目設定、科目グルーピングを検討した。また、系列を実態に即したものに再編した。
	主体的に進路選択する能力・態度を育成するための指導状況	生徒の実態に即した進学指導や職場開拓に努める。	3.3	3.1	3.2	3.5	3.3	昨年度に引続き、就職・進学とも100%の進路決定となった。今後とも就職指導部を中心にキャリアサポートスタッフと連携を取って職場開拓にあたる。進学指導に関しては受験科目等の早めの理解と対策が必要である。

4 教育環境に関する評価

評価項目	評価指標	具体的方策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成果と課題
安全管理	学校安全計画の作成と安全点検の実施状況	学校の安全管理について不審者の侵入を防ぐなどの対策に努める。	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	開かれた学校を目指し、農場等への地域の方々の来校を積極的に受け入れており、外来者への声かけが必要。また、事務室窓口来校者受付での記名の徹底を継続する。
保健管理	日常の健康観察や健康管理能力向上のための取組	生徒の健康管理についての意識向上を図る。	3.4	2.9	3.1	3.5	3.2	生徒会保健委員会が毎月、「ほけんだより」を発行し、健康に関する情報提供をおこなった。また、年間10回の健康週間を設け、生徒各自に健康づくりに向けたチャレンジ目標を設定させる取り組みを行った。この組みが生徒へ十分に浸透しなかったことが反省点。生徒が活動の意義目的を理解するような働きかけが必要。

保健管理	校内美化に対する取組状況	毎日の清掃の監督・点検に努める。	3.1	3.1	3.1	3.0	3.1	掃除時間における監督者による出欠確認と同伴清掃により校内美化に成果があった。教師が不在時の掃除の取り組みが十分でない。今後の課題である。
施設・設備	施設・設備の点検等の実施状況	日ごろから施設・設備の点検を行い、事故防止に努める。	3.2	3.0	3.2	3.5	3.2	日々の戸締り巡回時の点検、危険箇所確認を継続する。指摘があった箇所については、速やかに対応し、改善が図られた。
	学習生活環境の充実のための取組状況	危険箇所の改修については迅速に行うよう努める。	3.4	2.8	3.1	3.0	3.1	月に1回安全点検の日を設けている。職員の意識は高いが、生徒からの申し出が少なく更なる呼びかけが必要。

5 開かれた学校づくりに関する評価

評価項目	評価指標	具体的方策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成果と課題
保護者・地域 住民との連携	学校開放の実施状況	公開授業や参観授業に積極的に取り組む。	3.0	2.6	3.0	3.0	2.9	5月の育友会(P T A)総会時に一斉公開授業を実施したが、授業参観者は少なかった。時期の見直しと周知の方法が課題である。農業科による地域開放講座を年間8回開講。本校の魅力を理解してもらうことに成果があった。
	保護者との連携状況	保護者と連携して欠席・遅刻の防止に努める。	3.2	2.7	3.1	3.0	3.0	遅刻欠席の連絡は保護者からしてもらうようお願いしている。おおむね協力が得られており、引き続き協力をお願いする。生徒に対し学校と保護者の連携の意義について理解を促す必要がある。
	教育相談体制の整備状況	適宜保護者面談を実施し、家庭と連携を図る。	3.3	2.8	3.1	3.0	3.1	生徒が抱える問題を把握したときは、担任を通じ保護者に連絡・確認を行った。深刻な場合は随時面談を行い、必要に応じてスクールカウンセラーと保護者面談を実施。

(生徒のみ) 他者への配慮	人権に関する指導状況	自分は周囲や相手のことを思いやって生活できている。		3.2			3.2	人権教育、ソーシャルスキル研修、及び情報モラル教育を年間指導計画に組み入れ、充実を図った。日常の学校生活の中で、他人への配慮の重要性を理解させる働きかけを継続的に実施する。
(生徒のみ) 環境への配慮	環境に関する指導状況	自分は環境問題を意識し、何らかの取り組みをしたことがある。		3.0			3.0	関係教科(公民、理科、保健、家庭、農業)の授業の中での学習に加え、生徒会活動等を通して生徒の意識向上を図る取り組みが必要である。